

知っていますか？ 郷土の民話

普門寺のお葉つき銀杏

今月は、普門寺の銀杏の木にまつわるお話です。樹齢320年のこの銀杏の木は、今年の2月に県指定文化財に指定されました。これは、「お葉つき」、「ラツパ」、「斑入り」といった珍しい特徴が見られるからです。そして、この珍しい木に関する伝説が、現在まで受け継がれているのです。

今から500年以上前の文明年間、上三川城主の横田綱親つなちかは、ある晩夢を見ました。それは、敵の大将と一騎討ちの末、命を落とすものでした。夢から覚めた綱親は、自分の行く末を見た気がして震え上がりました。戦国時代のこの頃、各地で合戦が繰り広げられ、綱親も古河公方こがほうの命を受けた主君の宇都宮正綱とともに、各地を転戦していましたので、正夢になるのではと考えると心細くなりました。

ちようどの頃、上三川城では、夜更けになると銀杏がうめき声をあげて泣くとの噂がたつたり、城中にも不思議なことがおこり、人々の不安がつのり、綱親も不安な日々を過ごしていました。そんなある日、上三川に信俊しんしゅんという僧が訪れ、人々に慈悲を施していることが、綱親の耳に届きました。綱親は信俊を呼び、銀杏の木を供養しよう命じると、承知した信俊は供養をし、銀杏を切り倒しました。すると中から三百数十匹の大蛇が嬉しそうにぞろぞろと出て

きて、姿を消しました。そして、これを境に、異変が途絶えたので、綱親は信俊に命じて、銀杏の木のあったところを切り開き、数々の戦士の死者を弔うために普門寺を建立しました。それから5年後、綱親は古河公方足利成氏しげうじの命令で、主君宇都宮正綱とともに上州川曲に出陣し、敵の豪傑上杉憲忠のりただと一騎打ちの勝負をしました。敵の豪傑上杉憲忠と一騎打ちの勝負をしましたが、以前に見た夢の通り、無念の最期を遂げました。上三川の人々はいよいよ悲しみ、綱親を丁重に葬りました。

この後、以前切り倒した銀杏の切り株から出た芽が成長し、その葉先に実がなる珍しい銀杏が育ちました。人々は葉先に実がなるということとは、綱親が極楽の世界に生きており、信俊和尚も見守っているのだと考え、この銀杏を「お葉つき銀杏」と呼ぶようになりました。その後、枝の付け根から、多くのコブが垂れ下がり、この銀杏に願をかけると子宝が授けられ、丈夫な子どもが育つという評判がたち、「子育て銀杏」とも呼び、参詣者が後を絶たなかったということです。



普門寺の銀杏

広報俳句

背番号貫ふ新人五月晴れ

浜野 正男

物干しに色のあつまる梅雨晴間

大八木喜重郎

青葉の香朝の大きに漂へり

柳田 石村

急げども方向音痴蝸牛

蓬田 四方

血圧を下げる若葉の風通る

伊沢 静香

香りよく夜目にも白く梔子の花

濱野 マス子

千切りのキャベツのリズム確かなり

阿部 信子

万緑の名木榎の刀瘡

野沢 花枝

蛍袋溜息ひとつこぼしけり

上野 キミエ

腕白の坊主頭や夏来る

武井 ミイ子

